

設楽発掘通信

No.53
令和2年
5月号

令和二年度の発掘調査が始まります

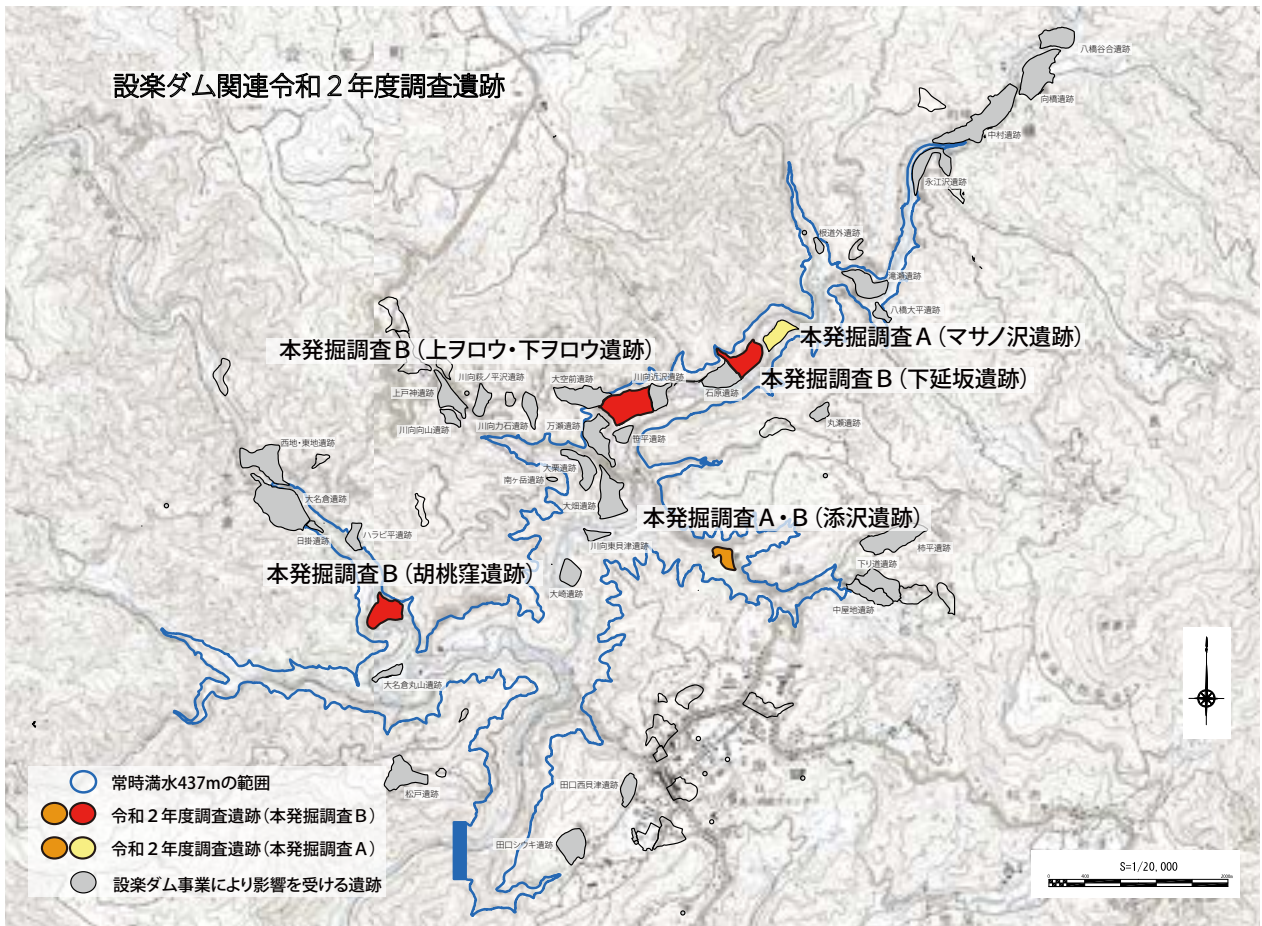
今年度も、これまでと同様に、設楽ダムに関わる発掘調査を愛知県埋蔵文化財センターが中心となって実施して参ります。設楽ダムに関連する工事予定地や水没する地区には数多くの遺跡がありますが、工事によって壊されたり水没したりする遺跡については、遺物や記録を残す必要があるため、この発掘調査が行われています。

令和二年度では、本調査を行う必要がある区域を調べる本発掘調査A（いわゆる範囲確認調査）と、滅失する遺跡全体を対象とする本発掘調査B（いわゆる本調査）の両方を実施する予定です。本発掘調査Bを行う遺跡は、大名倉地区の胡桃窪遺跡、川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡と下延坂遺跡、田口地区の添沢遺跡の四遺跡です。また、本発掘調査Aを行う遺跡は小松地区のマサノ沢遺跡と田口地区の添沢遺跡の二遺跡です。発掘調査を担当するのは鈴木正貴、堀木真美子、蔭山誠一、川添和暁、鈴木恵介、渡邊峻、田中良、河嶋優輝、宮腰健司の九名の調査員で、国際文化財株式会社支援を受けて進めて参ります。調査を円滑に行うには、地元の皆様にご理解をいただくことが最も大切と考えています。よろしくお願い申し上げます。

また、発掘調査を終えた遺跡の整理調査については、三遺跡を対象に弥富市にある愛知県埋蔵文化財調査センターで行います。具体的には、平成二十七年に発掘調査した小松地区の笹平遺跡（今年度で二回目）、同じく川向地区の大栗遺跡、平成二十八年度に発掘調査した小松地区のマサノ沢遺跡の三遺跡の整理作業を、それぞれ鈴木正貴、樋上昇、永井宏幸が担当します。今年度は発掘調査報告書の刊行の予定はありませんが、笹平遺跡と大栗遺跡の発掘調査報告書については令和三年度末に刊行する予定となっています。

発掘調査にあたっては、これまでと同様に、設楽町田口の旧県保健所に愛知県埋蔵文化財センター設楽事務所を拠点にし、この「設楽発掘通信」を発行し、各遺跡の地元説明会などを開催して、皆様に調査成果などをお知らせする予定です。どうぞご期待下さい。

（鈴木正貴）



国土地理院発行 2万5千分の1地形図「田口」 H27.1.1刊行より作成

令和二年度の調査員紹介 今年度は私たちが担当します。



副センター長兼
調査課長
池本正明

専門は中世で、信仰とか葬送墓制に関心があります。設案の調査現場には、月に一回程度登場します。



主任専門員
鈴木正貴

調査課の鈴木正貴です。これまで二〇〇九年の範囲確認調査、二〇一四年、二〇一五年、二〇一七年の本調査、二〇一八年の調整を担当しており、本年度が六回目となります。主に鎌倉時代から江戸時代の集落遺跡や都市遺跡を研究しています。



調査研究専門員
川添和暁

考古学を学問的背景とする埋蔵文化財調査は、常に新しい発見に満ちあふれています。しっかり調査して、いち早く皆様にお伝えできればと、思います。

上ラロウ・下ラロウ遺跡を担当



調査研究主事
田中 良

田中 良です。専門は縄文時代草創期の木葉形尖頭器と有舌尖頭器です。今年度も発掘通信や地元説明会を通じて、みなさまに最新の調査成果をお届けします。よろしくお願いします。



調査研究主任
鈴木恵介

二〇一七年度の大畑遺跡以来、三年ぶりに設案ダム関連遺跡の調査を担当させていただきます。担当は胡桃窪遺跡です。

胡桃窪遺跡を担当



調査研究専門員
陰山誠一

設案三回(年)目の担当の陰山です。もっぱら中世以後の遺跡の仕事をしていますが、専門は弥生時代の竪穴住居です。



調査研究専門員
堀木真美子

今年、設案地区に配属された堀木です。学生時代は設案の山中で岩石を観察していました。

下延坂遺跡を担当



調査研究専門員
鬼頭 剛

地層から遺跡の立地場所の成り立ちを調べています。発掘がわりに近づくころ、調査区にお邪魔をします。

自然科学分析を担当



調査研究主事
河嶋優輝

昨年度に引き続き設案町での調査を担当します。専門は縄文時代後期の土器です。よろしくお願います。



調査研究嘱託員
宮腰健司

昨年に引き続き、今年度も設案地区担当になりました。遠い昔の大学の頃から弥生時代に興味を持っています。

添沢遺跡とマサノ沢遺跡を担当

新設案発見伝6について

設案ダム関連調査が本格的に始まって以来、毎年三月初旬に開催していましたが、今年三月初旬に開催していません。今年一月から準備を進めてきました。ところが、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催が難しくなり、二月末に開催中止となりました。楽しみにしていた皆様には、大変心苦しい限りです。年に一度、町民皆様に事業成果のご説明をすることができなかったスタッフ一同も、大変残念に感じております。

今回は、上ラロウ・下ラロウ遺跡、石原遺跡、そして万瀬遺跡の発掘調査成果をまとめてご報告する予定でした。各遺跡とも、現地での地元説明会は開催しており、これまでも「設案発掘通信」内で調査速報は、随時掲載しております。しかし、発掘調査をすべて終えて、成果を一挙に報告する機会は、情報発信する埋蔵文化財センタースタッフにとっても、調査成果を再度考える上で、この上ない良い機会となっております。このとても良い状態のフレッシュな情報を、皆様にお伝えできなかったことは、とても残念でなりません。また今回は、長野県から縄文時代研究者である綿田弘美さんをお招きしてのご講演も企画していましたが、こちらも開催することができなくなってしまいました。しかし今回、開催がかなわなかった成果報告会の配付資料は、例年通り作成しております。報告予定であった綿田さんの要旨も掲載してあります。これまでの設案ダム関連調査から明らかとなった新たな縄文時代研究成果にも、注目です。

弥富市にある埋蔵文化財調査センターでは、四月初旬から春の埋蔵文化財展として、「弥富新発見伝20」が準備されており、現在館内には「新設案発見伝6」で報告するはずであった調査成果が展示されています。こちらも五月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉館中ですが、今年度いっぱい展示の予定です。新型コロナウイルス感染症拡大防止などの状況が解消された際には、遠方となってしまいますが、是非、お越し頂ければと存じます。

(川添和暁)



写真1 愛知県埋蔵文化財調査センター館内展示の様子
昨年度の設案ダム関連調査の展示がしてあります。

令和元年度 設案ダム関連発掘調査成果報告会
新設案発見伝6
配付資料
日時：令和2年3月7日(土)
会場：設案町役場議場

報告会次第・目次	
設案ダム関連埋蔵文化財包蔵地(遺跡)と周辺遺跡 2
13時30分~13時40分 令和元年度の設案ダム関連の発掘調査について	伊藤真央 4 (愛知県教育委員会)
13時40分~14時00分 報告1 上ラロウ・下ラロウ遺跡の発掘調査	永井宏幸 6 (愛知県埋蔵文化財センター)
14時00分~14時20分 報告2 石原遺跡の発掘調査	田中 良 10 (愛知県埋蔵文化財センター)
14時20分~14時40分 報告3 万瀬遺跡の発掘調査	河嶋優輝 14 (愛知県埋蔵文化財センター)
休 憩	
14時50分~15時50分 講演 信州の遺跡・遺物からみた設案地域	綿田弘美 26 (長野県埋蔵文化財センター)
15時50分~16時30分 座談会 縄文時代の設案—ヒト・モノ・コトの動き—	聞き手 川添和暁 (愛知県埋蔵文化財センター)
進行・司会 尾崎綾亮 (愛知県埋蔵文化財調査センター)	

主催

- 設案町教育委員会
- 国土交通省中部地方整備局設案ダム工事事務所
- (公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- 愛知県教育委員会

写真2 『新設案発見伝6』配付資料

本誌は、愛知県埋蔵文化財センターホームページからダウンロードできます。是非、アクセスしてみてください。



笹平遺跡の室内整理調査

今年度、埋蔵文化財センターの本部では、笹平遺跡・マサノ沢遺跡および大栗遺跡の室内整理調査が行われています。ここでは、そのうち、平成二十七年に発掘調査が行われた笹平遺跡について、その様子をお伝えします。

笹平遺跡の室内整理調査は、令和元年度から二カ年計画で実施しており、今年度はその二年目です。主に出土遺物に関わる作業を中心に行っており、遺物の分類・接合・復元・実測・写真撮影の各作業を経て、報告書原稿の体裁へと整えていきます。

但し、これらの作業を行う前に、出土遺物全体を把握するための基礎データの作成が必要となります。土器では、深鉢や注口土器などの器種（種類）、口縁部・胴部・底部などの土器の部位、さらには文様・調整や胎土から帰属時期の同定を行います。これに発掘調査での出土位置記録を合わせると、どの土器が、どこから、そしてどれぐらい出土したかを把握できるようになります。この基礎データから、実測や写真掲載資料を選定していきます。現在までのところ、土器は一万四千五百点ほどで、総重量三〇・八・九キロを確認しています。

一方、石器についても同様の基礎データ作成作業を行っています。これも、石鏃や打製石斧などの器種（種類）や細かい分類、使用石材などの情報をとり、発掘調査での出土位置情報と合わせて、どの石器が、どこから、どのぐらい出土しているのかの把握ができるようにしています。現在一万百五十点ほどの出土資料を確認し、そのうち四千点ほどで五八〇キロに達しています。

報告書では、実測図や写真に掲載されている、見栄えのいい大きな資料に目が行きがちです。もちろん、遺跡のあらましを知るには、これらの資料が手がかりになります。しかし、実際に当時のヒトたちが、遺跡で行った活動を詳細に復元するには、すべての出土した資料について、どの場所から、どのような種類、さらにはどのような状態（残存状況）で出土したかを、把握する必要があります。それには、圧倒的多数の破片資料を相手にしなくてはなりません。

室内整理調査は、発掘調査に比べると、地味で手間が掛かります。しかし、最終的に遺跡の復元を行うためには必須の作業であり、これが行われない限り、遺跡全体の様相を把握することはできないのです。

（川添和暁）



写真3 基礎データ作成の様子（上）と笹平遺跡出土土器（下）

設楽発掘通信

No.53

令和2年5月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

国際文化財株式会社

